

Kakō

加古川の未来を描こう

特集
くらす、みまもる





見守りカメラ



見守りタグはランドセルの中に



子どもたちを地域で見守る



かこがわアプリを操作する時本さん



見守り活動中の齋藤さん



地域ボランティアがつくった農園で芋掘り

くらす、みまもる

加古川市が日本一！ 一体何？



まずは上の画像を見てほしい。びっしりと並ぶ点は何だろう？ 答えは、加古川市内に現在設置されている**見守りカメラ**だ。

その数1,475。ちょっと驚く数ではないだろうか。実はこの台数、市が保有するものとしては全国最多（つまり日本一！）。防犯カメラとしての機能の他、内蔵する検知器で小型発信機「見守りタグ」を検知する機能も付いている。

市が見守りカメラの設置を始めたのは平成29年10月。地域の防犯力向上や犯罪の抑止・早期解決、子どもたちの安全確保のために始められた。「見守りタグ」を持つ人がカメラの近くを通ると、サービス



この看板、見かけたことのある人も多いのでは



見守りタグ

になっている。

小学校低学年のお子さんを持つ福浦さんは、この**見守りサービス**を利用する一人だ。

『『広報かこがわ』でサービスを知って、1年ほど前に申し込みました。月額200円ほどなので、一度試してみようかと。家が校区の中で一番遠い場所にあるので、登下校の道中が心配で。寄り道しがちだし、夏なんかは暑いので、途中で倒れていないか気になりますし。見守りタグはランドセルの中にずっと入れていて、帰りがあまりにも遅かったらアプリで位置を確認します。大雨などで、急なお迎えに行くときもどこにいるのか見られるので便利ですね。迎えに行ったら『なんで分かったん!?』と驚かれますが…。タグのこと、言っているのに(笑)』

低学年の間は利用を続けるつもりだという福浦さん。最近は、見守りタグを高齢の家族のために導入する人も増えている。



隆寛くんは遊びたい盛りの小学3年生。行動範囲も広がってきた

このサービスに見守る側として参加する方法がある。**かこがわアプリ**をダウンロードして、見守り機能をONにすると、自分の携帯

電話が「見守りタグ検知器」になるのだ。これにより見守りカメラのない場所や市外でも、アプリの見守り機能をONにしていれば、近くを通った人の見守りタグを検知するので、より広範囲の見守りができるようになる。

時本さんは、町内会で話題にのぼったのがきっかけで、最近かこがわアプリを使い始めた。



かこがわアプリの見守り機能をON

「アプリには見守り以外にも色んな機能があって、眠つぶしにもなるから、よう分からなくて人もまずはダウンロードしてみたらええかもしれないね。別にお金がかかるわけじゃないし(笑)。*私は本をよく読むので、図書館にどんな本が入っているかっていうのを見るのに使うよ。見守り機能は、アプリを使うついでにONにして、ちょっと役に立てたら嬉しいって感じやね」

※通信料金がかかります

子どもたちは地域で育てる

こうしたICTを利用した取り組みが登場する中、変わらない見守り活動もある。登下校時の見守りボランティアをはじめ、学校とも関わって幅広く活動する「陵北っ子をはぐくむ会」の齋藤さんに話を聞いた。

「平成22年に活動を始めたから、もう9年になるかな。登下校時には引率とか、見通しの悪いところで立ち番をしてる。毎日子どもたちの顔を見るから、お互い顔見知りやね。遅れてる子がおるなと思ったら、家に迎えに行くこともあるよ」



今年75歳。周りからの熱い声であと3年活動を継続することに

見守り活動以外にも、地域ボランティアとともに幼稚園や小中学校の草かりなどの環境整備をしたり、子どもたちの体験学習の場として畑の整備や管理をしたり、果ては授業に参加してサポートを行ったりと、齋藤さんの活動は多岐にわたる。そこで築いた関係性により、齋藤さんは子どもたちから親しみを込めて「先生」と呼ばれている（ちなみに他のボランティアも、「師匠」など

新しい「みまもる」と、変わらない「みまもる」



子どもたちのために整備した畑で芋掘り

と呼ばれている）。

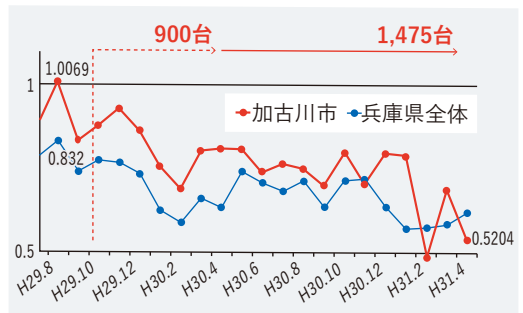
「一人暮らしの高齢者なんかは、学校参加したらやりがいになるし、つながりもできる。子どもたちも安心する。もっと多くの人が活動に参加してくれたら」と語る齋藤さん。「相談し合えた方がお互い暮らしやすいし、防犯にもなると思うから、若い人ももっと来てほしいな」ともぼろり。こういった活動が若い世代にも受け継がれていくことを願う。

さまざまなサービスが登場し、心強い存在になっているが、人と人とのつながりは地域の安全・安心を考える上では欠かせない。時本さんは、「地域で見守るのが一番で、サポート的にサービスを利用するのがいい」と口にしていた。

また、このインタビュー中、齋藤さんが地域の子どものことを「うちの子」と呼ぶのが印象深かった。多くの人が地域を身内として捉えられれば、より安心し、のびのびと暮らせるようになるのかもしれない。

見守りカメラ

カメラの存在が知られていくにつれて、犯罪の抑止にも大きな効果が。人口千人当たりの刑法犯認知件数が兵庫県全体を下回るようになりました。



カメラの画像データは、事件や事故の早期解決にも役立っています。

- 車上狙いの被疑者逮捕
- ひき逃げの被疑車両の特定・逮捕
- 児童から届出のあった不審者を特定・検挙

見守りサービス

見守りカメラに加え、郵便局のバイクや配達車両、公用車、公共施設にも検知器を設置し、検知ポイントの拡大に努めています。



かこがわアプリ

市公式アプリ「かこがわアプリ」にも見守り機能を搭載。インストールしたスマートフォンを持ち歩くだけで見守り活動に参加できます。

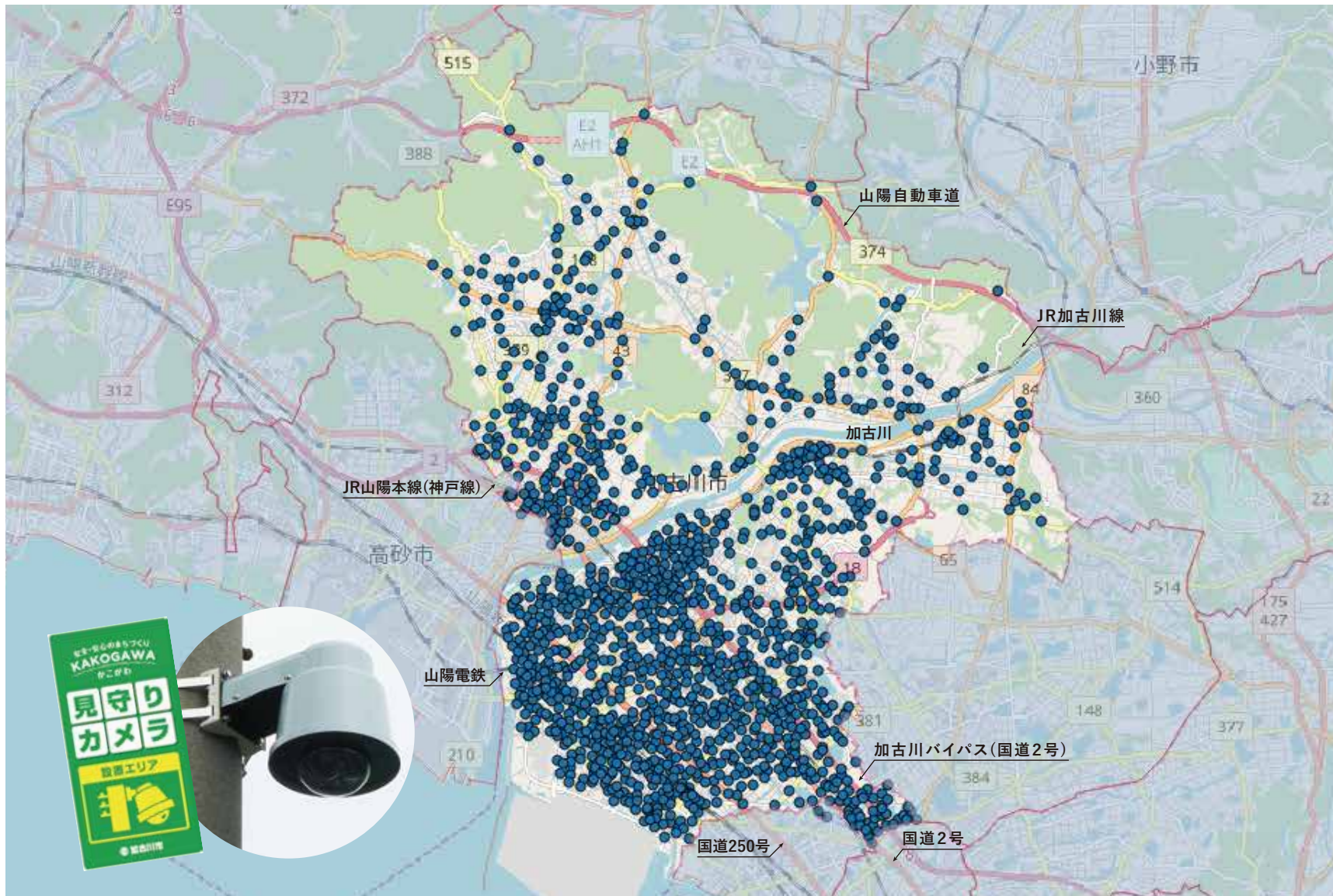


※no-reply@api.opendata-api-kakogawa.jpからのメールを受信できるようにしておいてください
※見守り機能を利用する場合は「Bluetooth」と「位置情報サービス」をONにしてください

＼ 加古川市が保有台数日本一！ ／

見守りカメラ1,475台が稼働中！！

見守りカメラ設置箇所



©Open Street Map contributors

市長コラム

ざっくばらん

テーマ：岡田家の防犯対策

私自身、安全のため子どもたちには、たとえ家から近くの場合であっても、なるべくみんなと一緒に帰ってくるように伝えています。口ずさばく言うので「分かってるよ!」と言われてしまうこともあるんですが(笑)。

近所の通学路では、多くの見守りボランティアの皆さんが子どもたちに声をかけてくれます。子どもたちも、ぜひ元気よく挨拶するようにして欲しいですね。普段から挨拶を交えるような「ご近所さん」の温かい見守りは非常に心強いと思います。

見守りカメラの設置が進み、加古川市全体では犯罪件数が減ってきています。しかし、カメラの目が行き届かないところもあります。カメラの「みまもり」とともに、地域の「みまもり」の相乗効果で、より安心して暮らせるまちづくりを皆さんと進めていきたいです。



ご感想はこちらへ

「Kakō」はいかがでしたか？

みなさんのご感想をお聞かせください。

抽選で10人にオリジナルグッズをプレゼントします。

※当選発表は賞品の発送をもって代えさせていただきます

発行：加古川市企画部政策企画課

〒675-8501

兵庫県加古川市加古川町北在家2000



Kakōについて

「加古川」の「加古」と「描こう」という言葉を合わせて、この新しい広報紙を「Kakō」と名付けました。タイトルに込めたのは、「加古川の未来を描こう」というメッセージ。今から10年後、20年後、加古川はどういうまちになっているでしょうか？「描く」ではなく「描こう」なのは、みんなに「一緒にやろう」と呼びかけたいから。加古川はわたしたちのまち。わたしたちで未来をつくっていきましょう。